

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み

中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み

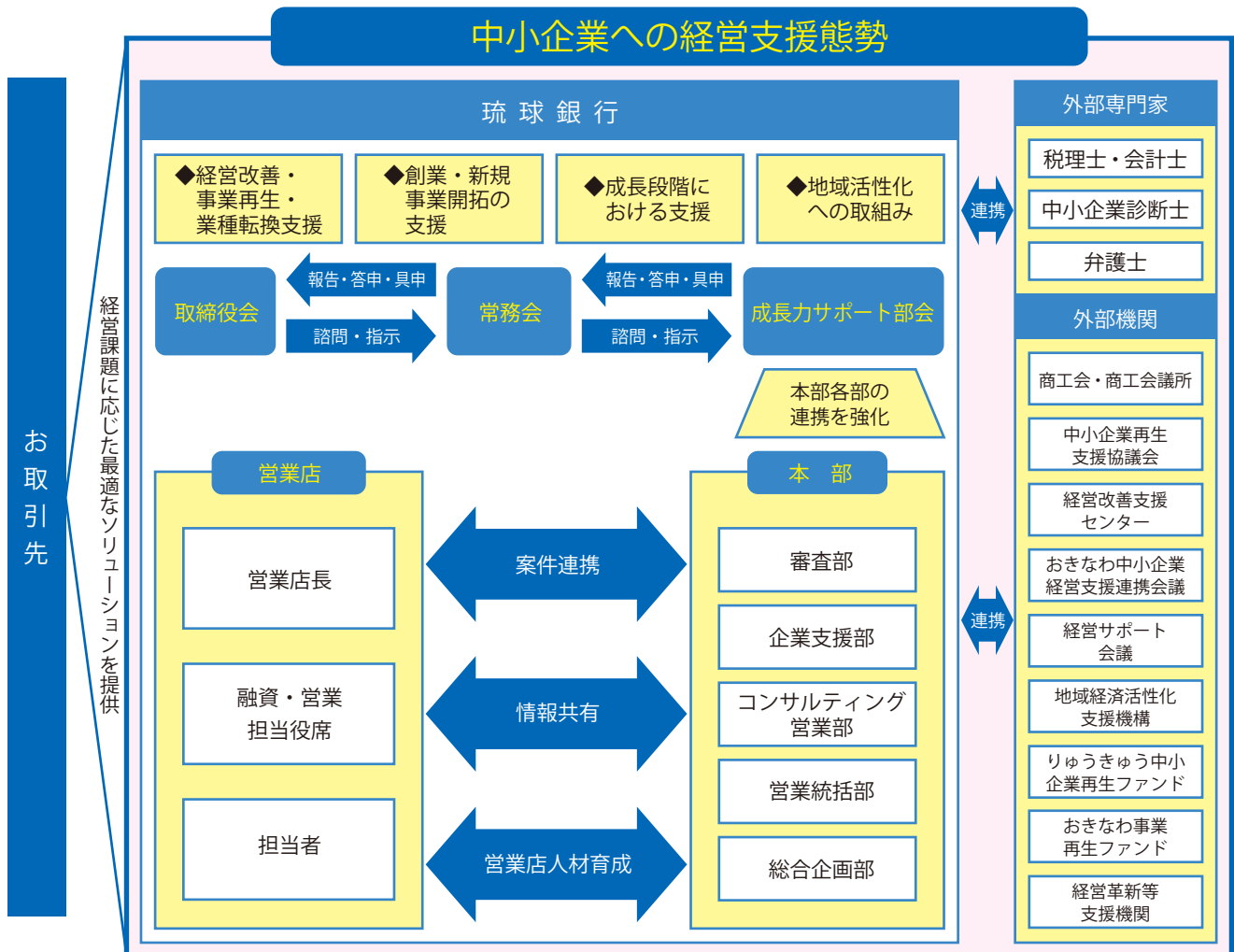
経営支援に関する取組方針

琉球銀行では、地域金融機関の使命は、お客様への円滑な資金供給など金融仲介機能の発揮と金融サービスの提供を通じて地域経済の発展に貢献していくことにあると考えており、これまで「ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化」、「事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底」、「地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献」を3本の柱とする地域密着型金融の推進に取り組んできました。

平成21年12月の中小企業金融円滑化法施行後は、地域金融機関としてさらに金融仲介機能を発揮していくために、「金融の円滑化に関する基本方針」を策定するとともに、金融円滑化への取組みを強化するための体制を整備し、お客様からのご相談・ご要望に積極的に対応しており、平成25年3月末の中小企業金融円滑化法の期限到来後においても上記方針に基づき、貸付条件の変更等や円滑な資金供給に努める体制を継続しています。

琉球銀行では、これからも、「創業・新規事業開拓の支援」、「成長段階における支援」、「経営改善・事業再生・業種転換等の支援」等について、外部専門家や外部機関等と適切に連携し、本部・営業店が一体となってお客様の経営課題に応じた最適なソリューションを提供するなど、コンサルティング機能を発揮した中小企業の経営支援に積極的に取り組み、地域の活性化・発展に貢献してまいります。

中小企業への経営支援態勢



中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み

【取組事例】

創業・新規事業開拓の支援

(平成25年度上期の創業・新事業融資実績: 153件、1,330百万円)

【太陽光発電設備ローン】

平成24年8月に、「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」による太陽光発電設備の需要に対応するための専用ローン「ていだパワー」を発売し、多くのお客様からご好評をいただきました。平成25年4月には、借入期間を見直すなどの商品改定を実施し、新たに発電事業を営むお客様を積極的に支援しました。

成長段階における支援

(平成25年度上期の事業承継等の相談受付件数: 15件)

【経営陣による株式買取(MBO)実施への支援】

世代交代や相続により株式の分散が進み、経営陣による持株比率が低くなっている法人のお客様に対し、税理士や弁護士などの外部専門家と連携したうえで、経営陣が出資する新設法人による株式買取(MBO)を提案・実行し、経営の安定化を図りました。

(平成25年度上期のビジネスマッチング成約件数: 23件)

【商談会開催による県産品の販路拡大支援】

沖縄の風土で育まれた豊かで特色のある食品を全国や海外に広めていくことを目的に、沖縄海邦銀行、コザ信用金庫と合同で「沖縄の味力(みりょく)発信商談会」を開催し、ポテンシャルの高い食品関連産業や農林水産業の販路拡大を支援しました。この商談会は、東京・大阪・福岡・香港・シンガポールなど県外・海外の一流レストラン・ホテルのバイヤーを県内に招聘し開催したもので、また、商談食材を使用した一流の料理人・シェフによる「特製レシピ」を事務局が作成するなど出展者の商談成立に向けたサポートも実施しました。

経営改善・事業再生・業種転換支援

(平成25年度上期の経営改善支援取組先: 259先 うち債務者区分ランクアップは8先)

【ABLを活用した資金調達支援】

経営改善支援対象先で製造業を営むお客様は、円安による原料コストの上昇などから余裕資金が乏しい状況にあるなか、売上の増加に向けて、まとまった原料仕入資金の調達に迫られていました。経営改善支援対象先としてヒアリングを継続するなかで、製品の販売が増加傾向にあることや仕入先の多様化により仕入コストが削減される見通しであることから業況改善が見込めると判断、原料を担保とするABLを実行し、お客様の資金調達を支援しました。

地域活性化への取組み

【起業家支援セミナーの開催】

大学生を対象とした「りゅうぎんアントレプレナー(起業家)支援セミナー」を開催し、小・中学生起業家と県内の大学生団体の代表(琉球大学・沖縄国際大学・沖縄大学・名桜大学)が沖縄の未来について語り合うことで、「変化する環境に自ら飛び込むことができるアントレプレナーシップ(起業家精神)」を育成しました。